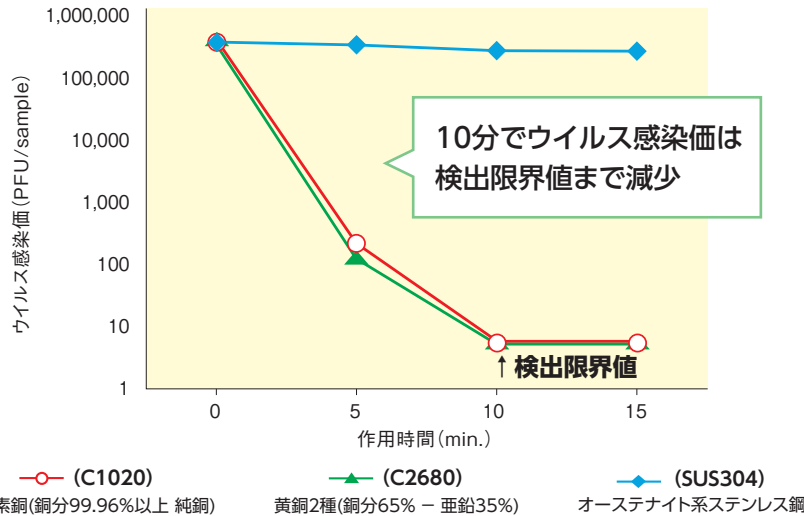


## ▶ 「新型コロナウイルスSARS-CoV-2」感染価の推移



試験方法: ISO21702(プラスチック及びその他の非多孔質表面の抗ウイルス活性の測定)に準じる

試験開始時のウイルス感染価:  $2.93 \times 10^5$  (PFU/sample)    検出限界値:  $5.0 \times 10^0$  (PFU/sample)

検出限界時の比較材に対する感染価減少率: 99.997%

試験協力: 奈良県立医科大学

銅および銅合金「新型コロナウイルス」にも驚異的な効果

10分間でウイルス感染価は検出限界値まで減少!!

「新型コロナウイルス」の感染者が初めて確認されてから2年余。この間、断続的に新しい変異株が生まれるなどして、感染者数は加速度的に増えつづけてきた。2022年1月末時点で世界感染者数約3億7000万人、死亡者数は約560万人、未曾有の数字となっている。他国と比べ低く抑えられてはいるものの、わが国でも2022年2月末時点で感染者数約501万4000人、死亡者数は約2万3000人にも達しており、この数字はさらに増え続けている。

このような状況下に日本銅センターでは奈良県立医科大学に銅および銅合金の「新型コロナウイルス」に対する不活化効果の評価を依頼。このほどその試験結果がまとまり、発表された。

試験材は銅(無酸素銅 C1020)および銅合金(黄銅2種 C2680)、比較のためにステンレス鋼(SUS304)の3種とし、結果、銅および銅合金は10分間でウイルス感染価の検出限界値まで減少、この時の比較材に対する感染価減少率は99.997%であった。

不活化効果についての試験結果の詳細は上グラフの通り。

### 〈抗ウイルス試験結果を第8回高機能金属展で発表〉

2021年12月に幕張メッセ(千葉市)で開催された「第8回高機能金属展」で日本銅センターは「接触感染予防に貢献する身近な安全素材 超抗菌銅」をコンセプトに出展、積極的なPRを行った。(本誌10ページ銅センターニュース参照)

この中で今回の「新型コロナウイルス」の試験結果をパネル紹介するとともに、同時開催されたセミナーでは、当センター事務局長和田正彦が「銅の超抗菌性能とCUSTAR認証制度」と題し講演、この中でもこの試験結果を発表し、衆目を集めた。

